

新春 対談

市民の皆さんと協働で 誇りある安来市に。

今年新たな元号となります。地方創生の取り組みが進められた平成。市内でも多くの地域で特色ある地域づくりが取り組まれています。
今月号では、日々、報道という立場で地域取材しているやすぎどじょっこテレビの村下まどかさんをお招きして、近藤市長と新年の抱負について語り合っていました。

やすぎどじょっこテレビ

村下まどか

地域愛にあふれた活動を 市全体へ発信

村下まどかさん（以下、村下）平成30年は、全国山城サミットをはじめとした大きなイベントで忙しくさせていただきました。開館2年目となったアルテピアに何度もお邪魔させていただいたのをよく覚えています。
近藤市長（以下、市長） 猛暑や台風などの自然災害が相次ぎましたが、昨年のイベント時は天候に恵まれました。行政主体のイベントや地域主体の行事など、盛んに行われましたね。

各地の催しに行く度に、安来には地域愛を持って活動する人がたくさんいると実感します。村下 確かに、安来には自分の地域を思う人がたくさんいますね。取材をしていて、まちの盛り上がりを感じられます。市長 地域を盛り上げようと



▲上山佐で行われた「山奥の楽しい課外授業」。住民の力で地域を盛り上げています。

思っ活動されている人のおかげで安来は活気づいています。そのような人を市はさまざまな制度で応援しています。「元氣いきいき補助金」や「トライアングル補助金事業」などは、多くの団体・グループ、自治会などに利用してもらっています。どじょっこテレビさんには、これからもこのような活動をテ



「暮らしやすいまち」として評価されています

順位	市町村
1	島根県松江市
2	島根県出雲市
3	石川県白山市
4	島根県浜田市
5	鳥取県鳥取市
6	島根県安来市
7	富山県南砺市
8	富山県富山市
9	富山県小矢部市
10	島根県江津市

経済産業省発表データより

平成27年に経済産業省が生活コストの「見える化」を発表。地域の家計収支や利便性、教育・子育て、福祉・医療などの暮らしやすさの指標を貨幣価値として表示して全国ランキングを示しました。(グラフの設定条件は40歳代:郊外・農村志向:夫婦と子ども(小中高生)世帯です。)



安来市長

近藤 宏樹

テレビで盛り上げてほしいです。村下 市内には交流センターが27館あり(中央交流センターを含む)、センター単位でさまざまな活動が行われています。全地区の活動をまんべんなく取り上げて、地域の思いを伝えていく必要があると思っています。自分の地区が映ると活気づけられますし、活動をしている人のモチベーションを上げることもつながりますので。

市長 自分の取り組みがテレビに出たり、他の地区の活動を見たりすることは良い刺激になります。テレビは、まちづくりへの貢献が大きいと思っています。

おなじみとなった「安来がスキ！」で一体感ができていますよ(笑)。

地域づくりに加わる若者の力

村下 地域の人や「自分たちのことは自分たちです」という考えを持って動いている地区が増えたように思います。

市長 比田では、住民で株式会社を設立し行政に頼らない形で地域づくりを行っています。この取り組みは良い地域モデルになっています。市が車の貸し出



▲東比田のデマンド交通。自分たちの地域は自分たちで守るという考えから始まりました。

しを行い、デマンド交通の取り組みも始めています。行政が全てを行うことはできませんので、こうした動きが必要になってきます。

村下 そうですね。地域主体の取り組みは、さまざまな面で大切になってきますね。

市長 防災の面でも地域の自主的な活動は大きな役割を果たします。市内には400近くの自治会がありますが、避難場所や避難経路はそれぞれ違ってきます。そのため、自主防災組織の働きが不可欠です。

市では防災マップの作成・配布などを行っています。行政の動きにはどうしても限界があります。まずは地域のことは地

若者の挑戦へのサポートが 定住につながります



域で話し合うことが大切です。村下 中学生の活動から動きが始まったところがありますね。第三中学校で、ここ数年行われている生徒たちの防災学習に地域の人が関心を持ち、一緒になって防災について考えていくようになっていきます。

若者が地域を動かした良い例ではないでしょうか。市長 若い世代の良い活動が増えてきていることは私も感じています。これにより安来が住みやすくなっているのでしょう。経済産業省の発表では、安来は



住みやすさ全国6位でした。この順位となった主な要因の一つに地域活動が挙げられます。

村下 地域が元気なまちは魅力的だと思います。特に若者が活躍している地域は元気だなと感じます。若者の挑戦をサポートしてくれる先輩がたくさんいると思います。

比田の例に戻りますが、UITターン者の新たな視点が出てくれば、地域が活発になるケースは少なくないと思います。住みやすい土地なら魅力は上がっていきます。

市長 新旧の世代がうまく交わることができればまちの魅力はさらに増します。若い人に安来の良さを知ってもらい、安来に住んでもらうことは、定住対策の第一歩だと思っています。

安来の良さを伝える 見つける

村下 私は大学に進学するとき一度安来を出ています。それでも「どじょっこテレビ」という仕事を見つけてことができました。



ので、こうして安来に戻ってこられました。

安来には良い企業がたくさんありますが、それを知らない人が多いです。

市長 そうなんです。安来には良い企業がたくさんあるんです。しかし、情報発信が足りていない部分があります。行政と一緒に頑張っていきましょう。

安来に帰ってきたいという人に必要な情報を届けられれば、若者をつなぎ止めることができます。

村下 先日、高校・企業・保護者の三者交流会の取材に行きました。それでも情報発信という話は上がっていました。若い人がどれだけ安来に残ってくれるか、どうやって流出を止めるか



▲「情報ITフェア」の様子。市は情報科学高校と協定を締結して連携を深めています。

が重要だと改めて感じました。市長 安来には良い企業があります。また、安来出身の良い人材もいます。行政の役割はそれをうまくマッチングさせることです。企業と行政が一緒になって若い世代へのアプローチを考えたいですね。



●近藤宏樹安来市長

平成 17 年から市長となり、現在 3 期目。地域・産業振興、福祉・教育、定住対策などに積極的に取り組む。将来を見据えた施設整備をはじめ、ハード・ソフト両面でまちの充実を図っている。

一度、都会へ出てしまった人は、安来には何も無いと思ってしまいがちです。しかし、そんなことはありません。安来の魅力、安来は良いという価値観を見つけてほしいです。

村下 私も県外から Uターンしたときは何も無いと思いました(笑)。でも、仕事などを通して今感じていることは違います。とても元氣のある、魅力あるまちだと思っています。

このまちに「誇り」を持ってほしい

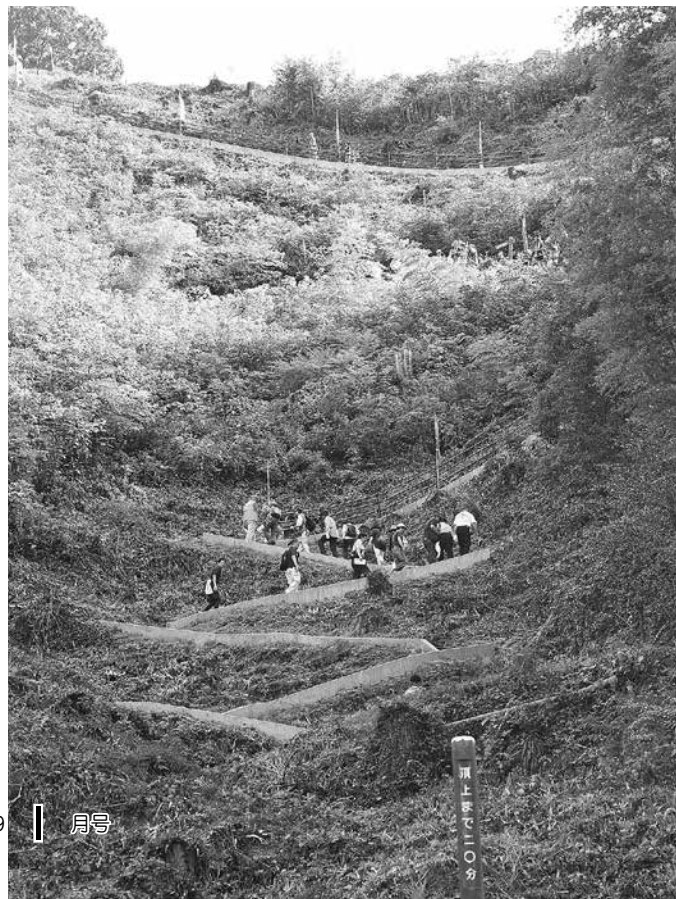
ピアノなど、他のまちに負けないうものが多いです。ですので、市民の皆さんには安来に「誇り」を持ってほしいです。

村下 8 年間この仕事をして「安来はすごい」と純粋に思います。誇れるまちです。

市長 富田城跡整備は、この地に誇りを持ってほしいという思いで進めている事業です。先日は妻と月山周辺を散策しながら。この地の歴史を感じながら気軽に歩ける場所です。もともと多くの人に知ってもらい足を運んでほしいです。

村下 全国山城サミットでは、山城研究者の先生方から高評価でした。富田城跡やアルテピアは、市民の誇りとなるものになっていくと思います。こうした親しみをもてるものがあると定住にもつながります。そして、私はそう思ったものを伝えることで安来に貢献したいと思っています。

▼全国山城サミット安来大会と戦国尼子フェスティバルを同時に開催。写真は、史跡見学会の様子。富田城跡は今、全国から注目されています。



**「誇り」を持ってほしい
安来には魅力があります**

また、医療費助成や就学援助など、福祉・教育も充実させて画しています。

市長 これから安来はさらに良くなります。農業分野では、西日本屈指の大型ほ場整備が行われています。これにより新規就農者の増加や先進的な農業の取り組みが期待できます。産業面では新たな工業団地の造成を計画しています。

これらの施策を土台にして、地域の皆さんにはそれぞれに魅力ある・安心できる地域づくりを進めていただきたいと思います。そうすることが、人口の定住化につながります。

これからの安来をさらに注目してください。

村下 「安来はすごいところなんだ」と皆さんに思ってもらえるよう、今年も多くの話題を発信していきたいです。

